

文 化

私が住む仙台市に1935年にたった一度、演奏されたたきりで発禁処分になった幻の「ご当地ソング」がある。初代仙台藩主、伊達政宗の三百回忌を記念して制作された「御藩祖をどり」だ。私は歌詞や楽譜を探し、82年ぶりに原曲を復元。市内の合唱団「いずみオッサン」が今春に「御藩祖をどり」の河北新報に載った

きっかけは35年5月14日の河北新報に載った。完成した曲は35年5月12日に仙台産業観光博覧会の開会式で披露され、ラジオで全国放送された。ところが、宮城県警察部特高課が歌詞を問題にし普及禁止にした。

「御藩祖をどり」の制作も三百年祭の一環だった。政宗を慕う歌を作ろうと市長だった渋谷徳三郎が自ら上京。「東京行進曲」などのヒット曲を数多く生んだ詩人の西条八十と作曲家の中山晋平コンビに歌詞・作曲を依頼した。完成した曲は35年5月12日に仙台産業観光博覧会の開会式で披露され、ラジオで全国放送された。ところが、宮城県警察部特高課が歌詞を問題にし普及禁止にした。



作曲家直筆の「御藩祖をどり」の楽譜（中山晋平記念館蔵）

幻の歌 82年ぶり復元

◇発禁処分の政宗「御藩祖をどり」たどり、今春にも演奏会◇

月12日に仙台産業観光博覧会の開会式で披露され、ラジオで全国放送された。ところが、宮城県警察部特高課が歌詞を問題にし普及禁止にした。

記事に歌詞の紹介はなかったが、作詞者の西条八十は「政宗公の最も立派なところを抹殺してしまうので、作者としては真に残念」と語っている。「西

という。地元では、政宗が仙台城と瑞巖寺（宮城県松島町）に一段高い帝鑑の間」を設け、何人たりとも一步も入らせず、玉座と称したことはよく知られていた。このため誰も不敬とは思わなかったが、治安警察法違反で3番を全て削除することになったという。

歌詞が分かったことで調査に本腰を入れた。作曲者の中山晋平記念館を訪ね、楽譜の原本を見せてもらった。すると空白部分は「ハ ソウトモ ソウトモ ソウトモ ナット」と囃子詞が書かれていた。これが空白の正体かと納得。ただ、どのような抑揚で調子を取るかは謎のままだ。

とはいえ、歌詞と楽譜がそろったので、知人がいる男声合唱団に演奏をもちかけた。「記念の歌を復活させられるのはうれしい」と団員も意欲的で、宮城教育大学の泉勉名誉教授の指揮の下、日夜練習に励んでいる。披露の場所はまだ決めていないが、まず政宗の霊廟、瑞鳳殿で演奏したい。

私は長年、仙台市職員として勤めるなかで、地域に対する興味を深め、疑問に思ったことを仕事の間個人的に調べてきた。分かったことは記録に残さなければならぬという思いは東日本大震災後、強まった。「地元学応援団」を名乗り、2016年からは「奥州・仙台の謎解きシリーズ」という小冊子をこれまで3巻、自費出版した。次から次へと疑問がわくが、人との出会いから新たな知見を得ることもある。例えば、「御藩祖をどり」の歌詞。私は以前、三百年祭の時に市内3カ所に建てられた石碑について調べていた。そ



佐々木 伸

「玉座」の表現問題視問題視されたのは3番の「祀る玉座の十四代」といつくだけだった。「玉座は聖上陛下の場合にのみ用いるものだから、いかに藩祖公を讃える歌でも許すわけにはいかぬ」

（長野県中野市）に問い合わせると、音源はないが直筆の楽譜が残っていた。採譜されたものを送っていただいたが、主旋律にどうしても理解できない空白部分がある。御礼も兼ねて記念館を

社会の一断面を象徴する三百年祭の直前からレコードは治安警察法、歌詞は出版法が適用され、事前検閲が強化されていた。除幕式に参列した斎藤実は翌年、二・二六事件で殺された。言論・思想統制が厳しくなっていた時代だ。「御藩祖をどり」の成り行きは、こうした社会の一断面を示している。

「御藩祖をどり」の原曲を探していると松葉さんに話すと、運営するホームページにその話を載せてくださった。それを見た神奈川県の方から情報をいただき、調査が一気に前に進んだ。

地域の記憶は日々薄れ、放置すれば途絶える。住民が持つ身近な情報を継続的に記録していくことが大切だ。次は私の故郷で旧仙台藩領だった岩手県奥州市の謎について掘り下げたい。（ささきセンター館長）